早産の病理学的研究

——胸腺について——

広島大学原爆放射能医学研究所
遺伝，優生学部門
岡本直正・佐藤幸男
宮原晋一・日高惟登
秋本尚孝

研究目的

早産の原因を，母既往歴，分娩歴及び家族歴等の母体側と，胎児・新生児屍の剖検所見及び組織学的検索等を基にしての胎児側との両面から総合的に追求する。

研究方法

1946年以降，蒐集剖検された約1万例のヒト胎児，新生児屍の剖検例の所見，家族歴，妊娠歴及び分娩歴などの資料を電算機で処理し解析可能な6000例の所見を基に，早産例を対照（人工早産で剖検的に異常の認められない例）及び死産例との間で比較検討を行なった。

研究結果及び考察

早産の体重に対する胸腺重量の割合をみると対照（人工早産のうち剖検的に正常）に比べて重いもの及び軽いものが見出された（$\alpha = 0.05\%$）。胸腺の軽いものは，特に早産後，暫時生存していた例（以下早産生存例）では早産の前期（胎生6，7ヶ月）及び後期の前半（胎生8ヶ月）に集中的に，一方早産で死亡娩出された例（以下早産死亡例）では早産の全期にわたってみられている。

死産例においても胸腺重量の重い例及び軽い例が見出された。以上の症例を早産，死産別に，その各々の全症例に占める割合いでみると胸腺重量増加例は死産に多く（早産1121例中73例（6.0%），死産307例中38例（12.3%）），胸腺重量の減少例は早産に多く（早産1121例中100例（8.3%），死産307例中15例（4.8%））見出される（表1）。これらの症例を剖検的に異常の認められない例（正常例），奇形，病的所見を有する例等の診断別に区分すると胸腺の重量増加及び減少例は一様に病的所見を有する群に多いが（重量増加：早産56例（76.6%）死産24例（63.2%），重量減少：早産71例（71%），死産7例（46.7%）），胸腺の重量増加例は減少例よりも早産の正常例に多く（重量増加：早産正常9例（12.3%），重量減少：早産正常例3例（3%）），奇形＋病的所見群においては，重量増加（早産5例（6.9%））よりも重量減少例（早産20例（20%））が多くみられている。死産においても胸腺の重量減少が（7例（46.7%）），奇形＋病的所見群において，重量増加例よりも（11例（28.9%））高い頻度を示している。これらの胸腺重量の増加及び減少例の間で母体歴に特に有意の差はみられず，この傾向は死産例でも同様であった。

児の所見については双胎が，胸腺重量減少例の早産生存児に7例，早産死亡児に5例みられ，重量増加の例数（早産生存4，早産死亡1）よりも上回っていた。奇形は早産生存例よりも早産死亡例に重量減少が多く（早産生存：重量増加3例，重量減少4例，早産死亡：重量増加5例，重量減少27例）認められるが，その内容は各臓器にわたり特異的な傾向は見出し得ない。

更に胸腺と副腎重量の増加及び減少との関係をみると（表2）胸腺重量増加と副腎重量減少との合併及び胸腺重量減少と副腎重量増加との合併はいづれも早産に高頻度にみられた。前者は生存，死亡例とほぼ同じ頻度であるが，後者は死亡例に高頻度であった。両器官とも重量増加は生存例に多く，減少は逆に死亡例に多くみられている。この事は早産例における胸腺及び副腎の異形成を示唆するものである。組織学的には胸腺の皮髄，特に皮質における小淋巴球の増殖乃至は早期の退縮

像が，副腎では永久層の発育の不規則性，胎生改造層の非定型的な退縮像などがみられ，両器官の間には対照例にみられる様な関連性がみられなかった。

要　　約

早産の生存及び死亡例について母体側，胎児側から検討を行ない，胸腺と副腎の胎生期における発育の不均衡が早産の或る例ではその原因として役割を演じているのではないかと推測し得る結果を得た。

表 1.　**胸腺重量減少及び増加例の頻度**

	全症例	減　少	増　加
早　産	1211	100 (8.3%)	73 (6.0%)
生存例	345	32 (9.3%)	34 (9.8%)
死亡例	866	68 (7.8%)	39 (4.5%)
死　産	307	15 (4.8%)	38 (12.3%)

表 2.

重　量	早　産		死　産
	生存例	死亡例	
胸腺増加＋副腎減少	2 (0.6%)	7 (0.8%)	1 (0.3%)
	9 (0.7%)		
胸腺増加＋副腎増加	11 (3.2%)	14 (1.6%)	8 (2.6%)
	25 (2.1%)		
胸腺減少＋副腎減少	2 (0.5%)	21 (2.4%)	3 (0.9%)
	23 (1.8%)		
胸腺減少＋副腎増加	1 (0.3%)	13 (1.5%)	2 (0.7%)
	14 (1.2%)		
総　例　数	345 (100%)	866 (100%)	307 (100%)

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約

早産の生存及び死亡例について母体側,胎児側から検討を行ない,胸腺と副腎の胎生期における発育の不均衡が早産の或る例ではその原因として役割を演じているのではないかと推測し得る結果を得た。